善光寺さんを世界遺産に
ZENKOJI Temple for World Heritage Listing
Vol.8
2009.MAY

NEWS LETTER

善光寺の世界遺産登録をすすめる会　事務局■ 社団法人 長野青年会議所 内
Tel : 026-228-3260
http://www.sekaiisan-zenkoji.com

「善光寺と門前町」世界遺産暫定リストの候補「カテゴリーI」に選考

文化庁は文化審議会世界文化遺産特別委員会の調査審議を得て、平成20年9月26日に世界遺産暫定リストの追加選考結果を発表した。

その結果、平成18年と19年に地方公共団体から提案書の公募を受け付た32件より、九州・山口の近代化産業遺産群など5件を「世界遺産暫定リスト」として追加選考した。

今回、選考されなかった資産について、文化庁では将来的な世界遺産暫定リストの候補地として可能性を示した「カテゴリーII」を10件。提案そのものの大幅な見直しを求めた「カテゴリーII」を17件に2分類してそれぞれの資産を評価しました。特にカテゴリーIIについては、調査研究などの作業の進捗状況など課題を提示したうえで、将来的な候補となり得るか否かについて十分に検討することを地方公共団体に求めている。

「善光寺と門前町」の場合、当面、主題に関する学術的な調査研究を十分に行い、「近世の社寺とその門前町関連の文化資産」として一定の方向性が見えた段階で、登録の準備を進めるべきものとしている。

総体的な評価は、「善光寺境内とその門前に形成された門前町に、仏堂をはじめ、宿坊、仲見世、商家等の歴史的な建造物群が多く遺存する資産」としながら「民衆に広く浸透した善光寺信仰に基づき、これらが庶民に開かれた独特の都市景観を形成してきたことを示す資産として、価値は高い」としている。

以上のような観点から、善光寺の世界遺産登録に向けた将来展望は、文化庁が示す課題に即してさらに発展的な継続調査をすすめていくことが必要となる。世界遺産登録の国際的な情勢や動向を見据えながら、今後も継続的に学術的調査研究を進めていくことが重要となる。

善光寺の世界遺産登録をすすめる会では「善光寺と門前町」が世界遺産暫定リストの将来的な候補地となる「カテゴリーI」に評価されたことを受けて、さらに推進支援に向けた長期的な活動を継続していきたいと考えております。

2009年度事業計画（案）

暫定リストに向けた活動の推進

- 市民講座の開催
- 門前町文化ツアーの企画
- 提案書作成ワーキンググループへの支援・協力
- 門前町における伝統的建造物の登録文化財の推進
- 伝統的建造物群保存地区の指定に向けた支援・協力
- PR活動（御開帳期間PRブース開設・ホームページの充実・ニュースレターの発行）

推進会議（月1回開催）メンバー（一部欠席4/23撮影）

すすめる会会員一覧

すすめる会は、ご覧の会員の皆様方からの年会費によって活動しております。

朝日税理士法人	信州製袋	長野朝日放送	長野市連合商工会	八十二銀行
朝日病院	信防エディックス	ながの観光コンベンションビューロー	長野信用金庫	八十二文化財団
植木商店	信毎文化事業財団	長野北ロータリークラブ	長野青年会議所	福澤商店
エーシー工設計	鈴木土地	長野ケーブルテレビ	長野設計協同組合	藤森建設工業
FMぜんこうじ	炭平コーポレーション	長野県経営者協会長野支部	長野通運	ベイクックコーポレーション
FM長野	駿専・青木商店	長野県建設業協会長野支部	長野都市経営研究所	北信土建
エムケー精工	善光寺	長野県建築士事務所協会	長野トヨタ自動車	ホテル国際21
おらが園	善光寺木遣保存会	長野県社会保険労務士会	長野トヨペット	増田商会
カシヨ	善光寺まちづくり会議	長野県信用組合	長野西ロータリークラブ	松澤工業
岸クリニック	損保ジャパン長野支店	長野県信用農業協同組合連合会	長野日産自動車	松田産業
北野建設	第一印刷	長野県中小企業団体中央会	長野東ロータリークラブ	マツヤ
倉田博光会計事務所	第一建設工業長野支店	長野支部	長野放送	マルイチ産商
小池新聞店	第一法規	長野小売酒販組合	長野ユネスコ協会	萬佳亭
国際ソロプチミスト長野	泰和	長野国際親善クラブ	長野ロータリークラブ	ミヤテック
国際ソロプチミスト長野みすず	タカチホ	長野市区長会	中村建築研究所	宮本忠長建築設計事務所
小林歯科医院	高野総本店	長野市設計協会	中山法律事務所	明和印刷
西條被服	滝沢無線	長野市電設業協会	夏目	元善町
信濃毎日新聞社	長印	長野市PTA連合会	日新電機製作所	山口司法書士事務所
シューマート	鶴賀病院	長野市文化芸術協議会	日本通運長野支店	山本写真機店
信越定期自動車	テレビ信州	長野酒造協会	日本機材	八幡屋礒五郎
信越放送	電算	長野商工会議所	日本旅行長野支店	
信州経済同友会	東邦商事	長野商店会連合会	野村證券長野支店	（50音順）

平成21年5月現在　※表記等で間違いや訂正などございましたら事務局までご連絡下さい。

編集後記

昨年9月の世界遺産暫定リストには載ることは出来なかったが、将来の候補地の可能性を示す「カテゴリーb」の評価を頂いた。市長訪問の際、鷲澤市長より「一つ一つ固めていくことが必要」と、信州大学と連携しながらの研究継続の約束を頂くなど、すすめる会全体には前向きな雰囲気が漂っている。これからが正念場。何よりも運動を「続けていくことが大切」だと感じる。（事務局　矢部弘司）

善光寺周辺たてもの調査パネル展

2008年8月12日（火）から17日（日）までの6日間、お盆の帰省客らで賑わう長野駅コンコースにて、善光寺世界遺産登録のPRイベントを開催いたしました。

このPRイベントは、善光寺イヤー実行委員会の主催の下、善光寺や、ながの観光コンベンションビューロー、そして我々すすめる会が中心となって実施し、この期間中善光寺で開催される「善光寺お盆縁日」のPRや、翌年開催予定（当時）の御開帳のPRなども同時に行われました。

信州大学工学部土木研究室調査・制作による宿坊実測調査パネルの展示にあわせて、すすめる会では、世界遺産提案書の説明、パンフレット・ニュースレター・ステッカーの配布などを行いました。

ふるさとに帰省してきた大勢の方々に当会の活動を知っていただく最良の機会となりました。また、地元市民の方々には、普段はあまり意識していない宿坊についても、改めてその価値を知っていただく良い機会となりました。

開催期間中、善光寺ご住職を始め、関連の団体関係者の皆様と協力して一緒に実施できたことで交流の機会も広がり、その意味においても、私どもの活動に大きな前進となったと思われます。

長野市長訪問

平成20年12月16日、すすめる会の代表者らが鷲澤正一長野市長を訪問し、善光寺の世界遺産登録に向けた研究継続や善光寺周辺地区の重要伝統的建造物群保存地区(以下重伝建)の選定に向けた早期取り組みを求めた。

鷲澤市長は「重伝建の選定は世界文化遺産登録への第一段階」として2011年度の文化庁申請を目標に準備を進める考えを示した。

また文化庁が「世界遺産暫定リスト」への追加選考において「善光寺と門前町」をカテゴリーIbと評価したことについて「課題は明確になった。暫定リストに載らなかったことは残念だが、ひとつひとつ固めていくことが必要」とし、信州大学と連携しながらワーキンググループにて研究を継続することを約束した。

2008年度 事業報告

2008

4月
- ●第1回推進会議開催

5月
- ●2007年度決算・2008年度予算総会開催
- ●門前町文化フォーラム「善光寺世界遺産登録への道」開催
- ●文部科学省・文化庁訪問

6月
- ●第2回推進会議開催

7月
- ●第3回推進会議開催

8月
- ●善光寺周辺たてもの調査パネル展開催
- ●ニュースレターVol.7発行

9月
- ●第4回推進会議開催

10月
- ●第5回推進会議開催

12月
- ●鷲澤長野市長報告・陳情訪問
- ●第6回長野灯明まつり公式ガイドブックPR広告掲載

2009

1月
- ●第6回推進会議開催

4月
- ●ご開帳期間中PR実施
- ●第1回推進会議開催

5月
- ●2008年度決算・2009年度予算総会

日本国内の世界遺産登録と暫定リストの追加選考状況

日本国内の世界遺産

1. 法隆寺地域の仏教建造物
2. 姫路城
3. 屋久島
4. 白神山地
5. 古都京都の文化財
6. 白川郷・五箇山の合掌造り集落
7. 原爆ドーム
8. 厳島神社
9. 古都奈良の文化財
10. 日光の社寺
11. 琉球王国のグスク及び関連遺産群
12. 紀伊山地の霊場と参詣道
13. 知床
14. 石見銀山

日本国内の世界遺産

文化遺産	11件
自然遺産	3件
計	14件

世界遺産の登録件数

文化遺産	679件
自然遺産	174件
複合遺産	25件
計	878件

日本政府がユネスコに推薦書提出

日本国内の世界遺産暫定リスト

〔平成20年選定〕
- 「北海道と北東北の縄文遺跡群」
- 「金と銀の島佐渡」
- 「百舌鳥・古市古墳群ー仁徳陵古墳」
- 「九州・山口の近代化産業遺産群」
- 「宗像・沖ノ島と関連遺産群」

〔平成19年選定〕
- 「富岡製糸場と絹産業遺産群」(群馬県)
- 「富士山」(静岡県・山梨県)
- 「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」(奈良県)
- 「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」(長崎県)
- 「国立西洋美術館本館」(東京都)
- 「小笠原諸島」(東京都)

〔平成13年選定〕
- 「平泉の文化遺産」(岩手県)

〔平成4年選定〕
- 「古都鎌倉の寺院・神社ほか」(神奈川県)
- 「彦根城」(滋賀県)

文化遺産	13件
自然遺産	1件
計	14件

地方公共団体が文化庁に提案書提出

カテゴリーⅠ(世界遺産暫定リストの候補となりうる資産)

aグループ

- ○最上川と文化的景観
- ○天橋立
- ○錦帯橋と岩国の町割
- ○四国八十八箇所霊場と遍路道
- ○阿蘇山

※基本的主題を基に準備をすすめるもの

bグループ

- ○善光寺と門前町
- ○妻籠宿・馬籠宿ー中山道
- ○近世の教育資産
  (水戸藩教育資産・足利学校・関谷学校)
- ○近世の城郭・城下町関連の文化資産
  (城下町金沢・松本城・萩)

※統合または比較研究をすすめるもの

カテゴリーⅡ(世界遺産を目指すには難しいものと評価)

- 北海道東部の窪みで残る大規模竪穴住居跡群
- 松島・貝塚群に見る縄文の原風景
- 水戸藩の学問・教育遺産群
- 足尾銅山・足利学校と足利氏の遺産
- 埼玉(さきたま)古墳群
- 立山・黒部
- 豊峰白山と山麓の文化的景観
- 若狭の社寺建造物群と文化的景観
- 糸都岡谷の製糸資産
- 飛騨高山の町並み
- 近世岡山の文化・土木遺産群
- 三徳山
- 山口に花開いた大内文化の遺産
- 宇佐・国東八幡文化遺産
- 「竹富島・波照間島」の文化的景観

善光寺の
世界遺産登録に向けて

第７回

世界遺産登録の意味と都市のビジョン

善光寺の世界遺産登録をすすめる会
専門委員
浅野純一郎

善光寺と門前町の都市計画

善光寺と門前町の都市計画的な特徴を列挙してみる。第一、善光寺の位置。善光寺のかつての伽藍は背後の山から延びる高台の東南の際に位置していた。場所の選定に機微な配慮が感じられる。善光寺の立地場所は古代からの文化的先進地であり、四神相応の地だとされる。さらに中世には、善光寺が周辺の地形と一体化して強い浄土観を参詣客に与えていたとされる。創建者は善光寺の建つ場所の意味や効果をどこまで見据えていたのか、興味深いテーマである。

第二、参道の軸性。善光寺の参道は少なくとも三線あった。各々はかつての伽藍から南、東、西に延び、地域の基軸となっていた。「寛文如来堂絵図」(長野市立博物館蔵)を見ると、如来堂には各々の参道に対応する入口があり、それらの方向は各々の参道の方向と一致していたことが分かる。つまり、如来堂が地域の軸性を規定したと言えるだろう。

第三、空間認識。「善光寺参詣曼荼羅」(大阪府藤井寺市善光寺蔵)や「寛文如来堂絵図」が示すように、中近世には善光寺は犀川から旭山、葛山、大峰山、地附山までを含めて描かれていた。善光寺は伽藍のみで意識されたのではなく、周辺の地形や、門前町を含めた当時の人々の営みと一体のものとして認識されていたのだろう。

第四、門前町。町の一般的な形成経過を踏まえると、門前町には次のような発展モデルが考えられる。①参道の沿道に家屋が張り付き、門前に線状の町ができる。②これが発展すると、線状の町は長く延び、場合によっては複数の線状の町が現れる。③さらに発展すると、線状の町が交叉し、面状の町になる。「寛文如来堂絵図」を見る限り、寛文年間で善光寺門前町は面状の町である。善光寺門前町と言えば中央通りの印象が強く、線的な町と理解されがちだが、実は面状の町が基盤となっている。門前町の定義にはその発展経過の認識が必要である。善光寺門前町には、発展段階の全てが含まれる。だから門前町の典型と言える。

図中の緑色の部分が公園。公園群は街路で連結されている。
長野都市計画図第一号　街路並公園（国立公文書館所蔵）

第五、都市の近代化への影響。近代以降の長野の都市展開は善光寺と中央通りが規定した。新設道路は中央通りに並行か直交方向のいずれかの配置であった。また、中央通りの西側や善光寺よりには官庁や文教系施設が立地し、東側には花街があった。道路基盤も土地利用も善光寺と中央通りが規定した。明治大正期には今日のような総合的な都市計画こそ無かったが、門前町としての一種の都市観が人々に共有されていたのでこのような都市形成経過を辿ったと考えられる。

第六、生き続ける都市軸。戦前期の都市計画の樹立に際して、将来の都市発展を見据えた合理的な議論があった。例えば、将来の都市中心を発展の可能性の高い東方(権堂通りとJR線との交点付近)に設定するという構想である。しかし、東への計画的発展は机上に終わった。逆に、大正末期には中央通りを拡幅し、都市の近代化に備えるという大事業が行われた。中央通りを中心とした善光寺の軸線は、近代に入っても形骸化せず、都市の大動脈として生き続けた。

第七、象徴性。駅は近代都市の玄関となった。長野では、善光寺から十八丁の位置に仏閣型の駅舎が建てられた。「十八」は阿弥陀如来の第十八願「王本願」に由来するという。これほど町の象徴を明示した駅舎はないだろう。また、駅に限らず象徴を表し得る装置であれば、たちどころにそれを媒体として象徴の源として立ち現れる存在、それが長野における善光寺である。

第八、グリーンベルト。善光寺と門前町を緑で囲繞する計画が戦前の初期都市計画で示された(写真)。都市計画家山田博愛は、長野を、善光寺を中心とした遊覧都市と位置づけ、善光寺を公園で取り囲み、環状線でそれらを連結する計画を立てた。昭和十年代には善光寺を巡る広範囲に風致地区が指定され、この計画は一層強化された。現在、善光寺の周囲に風致美観が残るのはこの計画の恩恵である。

我々は今一度かつての理念や構想を振り返り、継承する必要があると思う。

第九、持続性。少なくとも1970年頃までは木造建築を中心とした周密な都市空間が、善光寺と一体となって確かに存在した。人々の生活空間として賑わいの場として門前町は生きていた。その後、長野の中心市街地は空洞化が進み、街並み景観も荒廃しつつある。善光寺門前町としての長野を今後どうするのか、それは我々の問題である。

現善光寺は旧伽藍の空間構成の復元か?

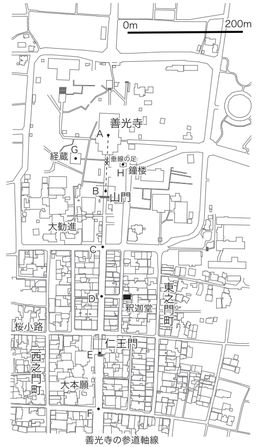
善光寺境内の参道を測量調査した所、そこにある仮説が成り立つことが分かった。図のABとBCは長さが95mで全く同じ(少し縮尺の大きい図面があれば実際に計っていただきたい)。つまり、旧北ノ門跡(C)と善光寺本堂(A)の中心との完全な中点に山門(B)はある。正確に言うと、A-B-Cは一直線ではないので二等辺三角形である。経蔵(G)と鐘楼(H)にも秘密がありそうである。経蔵と鐘楼の各々の中心からABに垂線を下ろし、各々の垂線の足との距離を測ると、経蔵の場合は53m、鐘楼の場合は26.5m。つまり、2:1の関係にある。垂線の足はABの中点にあるわけでなく多少のズレがあるが、単純な整数比となる以上、計画的に両者を配置したことを裏付けるのではないか。現本堂は1707年、参道の敷石は1714年、山門は1750年、鐘楼は1753年、経蔵は1759年にそれぞれ設営され、時期に開きがあるが、各々の配置計画は少なくとも本堂建立時に決めていたと考えるのが自然である。

さらにDFの長さは190mであり、ACの長さに完全に一致する。つまり、旧伽藍の持つ、旧二天門跡(F)と旧如来堂(D)の位置関係と、新伽藍が持つ、旧北ノ門跡(C)と現本堂(A)の位置関係に何らかの関係性を考えざるを得ないのである。試みにDFの中点を参道中心線上に見いだしEとすると、Eは仁王門前の階段を上がって、1mほど北に進んだ位置にある。そしてD-E-Fもまた一直線ではなく二等辺三角形であり、ABCのつくる二等辺三角形とほとんど合同なのである。このことから現本堂は旧伽藍の空間配置の復元ではないか、という仮説が浮上する。現本堂ほどの大伽藍の移転に対し何らの根拠がないのはむしろおかしいのであって、十分ありそうな話である。しかし、その場合Eの意味は何であろうか? また、経蔵や鐘楼はどうなのか、等の疑問が生まれる。全く興味のつきない話題である。今後の進展を期待したい。

明らかになった都市のビジョン

2008年10月の世界文化遺産特別委員会の審議において、「善光寺と門前町」は「カテゴリーⅠ-b」の評価を得、世界遺産暫定一覧表への将来的な追加記載に向けて、いくつかの検討課題が附けられた。今回の選考評価結果や「善光寺と門前町」提案書作成に先立って行われた識者へのヒアリングを踏まえると、あくまで世界遺産という尺度を通してではあるが、長野が目指すべき都市ビジョンが非常に明快に示されたという印象を強く持つ。それは「門前町」の保全と再生である。門前町まちづくりを進めれば、長野は世界に唯一無二の都市として存在し得るというポテンシャルが示された。この意味は大きい。

今回の審査結果によって、「世界遺産暫定一覧表」への追加記載が当面の目標になった。その為には、門前町の代表性、典型性、真実性、完全性等を説明する為の追加調査が必要である。しかし、これは一種の作業である。本当に大切なのは、肝心の門前町をどう保全し、再生するのかを考え、実施に向けて動くことである。世界遺産登録は活動の一つの目的であるが、その前に、長野のまちづくりの手段のはずであり、今回示された都市ビジョンの実現に向けたエンジンとすることが必要だと考える。



善光寺の参道軸線

浅野純一郎(あさのじゅんいちろう)
1968年岐阜県岐阜市生まれ
博士(工学)、一級建築士
豊橋技術科学大学工学研究科修士課程修了、積水ハウス株式会社、長野工業高等専門学校環境都市工学科助手、同助教授(准教授)を経て、現在豊橋技術科学大学建設工学系准教授
「中心市街地再生と持続可能なまちづくり」(共著、学芸出版社、2003年)、
「地域・都市計画」(共著、鹿島出版会、2007年)、
「戦前期の地方都市における近代都市計画の動向と展開」(単著、中央公論美術出版、2008年)など。